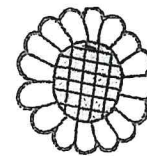


夏の感染症に注意しましょう！

夏に多く見られる感染症には、手足口病やヘルパンギーナなどいろいろなものがあります。どのような感染症があるのか、その特徴などを知って、きちんと予防するようにしましょう。予防の基本は、冬の感染症と同様、手洗い、うがいです。外遊びの後や食事の前などに手洗いやうがいを行いましょう。

| | |
|--|--|
| <h3>ヘルパンギーナ</h3> <p>症状 のどの痛みと高熱がおもな症状です。のどの上あごなどに小さな水疱がでます。</p> <p>注意点 のどの痛みや熱があるうちは家で静かにすごしましょう。のどの痛みで食事がしにくい時は、のどごしのよいものを与えます。</p> | <h3>咽頭結膜熱（プール熱）</h3> <p>症状 高熱、強いのどの痛みと共に目が充血し、元気がなくなりぐったりとしています。</p> <p>注意点 感染力が強いため、おもな症状（発熱、目の充血、のどの痛みなど）がなくなってから2日を経過するまで、登園停止です。</p> |
| <h3>手足口病</h3> <p>症状 手のひらや足の裏、ひざやおしり、口の中の舌やのどの周囲などに小さな水疱がでます。</p> <p>注意点 熱もなく元気で食欲もあれば、登園しても差し支えありません。ただし、まれに髄膜炎を起こす場合もあるので注意が必要です。</p> | <h3>流行性角結膜炎（はやり目）</h3> <p>症状 目の充血や朝起きた時に目やにがべったりついている、まぶたがはれているなどがおもな症状。</p> <p>注意点 感染力が強いため家族間の感染に注意します。手洗いの励行や個別のタオルを使用します。感染したら早めに受診しましょう。また、感染した場合は登園停止です。</p> |
| <h3>とびひ（伝染性膿痂疹）</h3> <p>症状 皮膚に水ぶくれができて、その水ぶくれが破れて、その滲出液がほかの皮膚につくと広がります。</p> <p>注意点 虫さされなどをかきこわしたところに菌が入って起こります。つめは短く切って、かきこわしをしないように注意しましょう。</p> | <h3>水いぼ</h3> <p>症状 栗粒大のいぼが胸、腹、わき下などにできて広がる。</p> <p>注意点 体の接触などで感染します。完治まで半年から1年半程度かかる。かゆみを伴う場合は医師と相談のうえ、いぼを取ったり、薬による治療を行うこともあります。</p> |



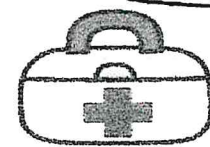
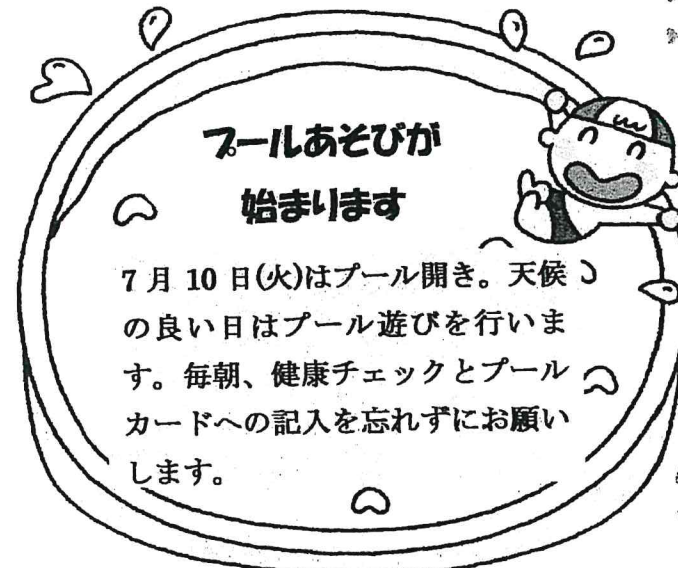
日に日に日ざしが強くなり心弾む夏がやってきました。天気がよければ、毎日プール！の子どもたち。元気そうに見えても、体は意外と疲れています。おうちではゆったりと過ごせるようにご配慮ください。

プールOK？ チェックリスト

元気に楽しくあそべるよう、毎朝の体調チェックをお願いします。

- 熱は何度ですか？
- 朝ごはんは食べましたか？
- 前日、よく眠れましたか？
- 目やにや充血はありませんか？
朝だけの目やにには心配ないことが多いのですが、昼間も目やにや充血が見られるようなら、結膜炎のおそれもあります。
- せき・鼻水は出ていませんか？
食欲がない、発熱などの全身症状がなければ、基本的には心配ありません。
- 下痢や腹痛はありませんか？
- 皮膚に発疹やかゆみはありませんか？
- 爪は短く切ってありますか？

少しでも心配な点がある場合は、直接保育士にご相談ください。

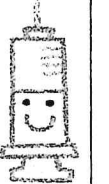
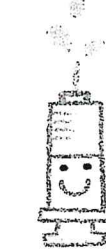


☆内科検診が行われます☆

日時：7月12日(木)9:00～ (0,1,2,3歳児予定)

17日(火)9:00～ (4,5歳児予定)

担当：わんぱくクリニック小児科医



※子どもの健康についてお聞きになりたい事などありましたら保育士までお知らせください

